

障がい者と目指す「共に生きる」社会 福祉をビジネスにする試み



出版した本を手にする榎本社長(左)と砂長さん

『障がい福祉』で書籍刊行

障がいの法定雇用率が4月から引き上げられる。民間企業で働く障がいの数は昨年6月1日時点で49万人を超えて過去最多を更新するなど、企業の障がい者雇用は年々増加している。保険業界でも、特例子会社を設立して、積極的に障がいの雇用の進める動きが見られる。働く仲間として障がい者を迎えるために、企業が考慮すべきことは何か。このほど、福祉をビジネスとして軌道に乗せた企業家を紹介する『障がい福祉の学びで得た5人のビジネス』(ラブリナ出版)が刊行された。執筆者の一人、ぜんち共済の榎本重秋社長と監修した砂長美んさんに、障がい者と共に生きること、人を幸せにするための企業・ビジネスについて話を聞いた。砂長さんは、ディスレクシアという読み書き障がいの当事者でありながら、一般社団法人「ありがとうショップ」代表として、障がい者施設で作った商品の企画開発・コンサルティングを行っている。

二人の出会いは。砂長 発達障がいの一つであるディスレクシアを広く知ってもらうためのドキュメンタリー映画に主演したのを機に、全国で上映会と講演を行うようになった。川崎市の障がい者就業施設のオーブン時に、映画の上映会を行った際、そこに、榎本さんが来ていた。榎本 美んちゃんは有名な人だったので、いつか会えると思っていた。出会った時は、「美んちゃん、やっと会えたね」という気持ちで、すぐに意気投合した。その後、ぜんち共済の宣伝担当顧問になってもらえないか頼んだ。障がい者のための保険を扱う会社で働く者として、「障がいとはどういうものか」を障がいのある人と接する中で学んでいかなければならぬ。美んちゃんには発達

人を幸せにするための企業とは

た時は、本当にうれしかった。本書を作るきっかけは。砂長 自身、過去に生保販売に携わった経験があり、「保険の良さを知ってもらうためにはどうしたらいいか」と考えた結果、本の出版を思い付いた。保険と関わりが深い「暮らす」の他、「学ぶ」「働く」をテーマに、いろいろな福祉の企業家の話をまとめた面白くないかと思つた。他の執筆者も、二人が活動する中で知り合ようになった人たち。榎本 この本の書き手はそれぞれ、美んちゃんという強力な「接着剤」がつながった。砂長 クラウドファンディングで出版費用を募り、約100人が寄付してくれた。ありがたいことに、初版1200部がすぐに完売し、1カ月で増刷になった。――どんな本にしようと思ったか。砂長 一般的に福祉の本というのは、「泣いて笑って太陽が昇った」みたいな感動話が多い。自分が当事者ということもあり、「感動している場合じゃないでしょう」という思いがまずあった。「障がい者が頑張つて作ったんです、買ってくださーい」と人のお情けにすぎるといふ冠が付くだけで価値が高まる」といった風潮には違和感がある。「誰かに助けてもらうのが当たり前とされる障がい者関連の世界を変えたい」という自分の哲学を込めた。「助ける」「支援」という言葉をみんな使いたがるが、それは同じ人間の目線での物言いでない。私を含め、5人の書き手は全員福祉をビジネスにした企業家。私たちが挑戦しているのは、障がい者にとつての「新しい自立のカタチ」を示すことなのだと思つた。榎本 ぜんち共済としても、障がい者のための保険はビジネスとして成り立ち、きちんとペイできるといふことを証明したい。5人はみんな、そうした志を持っている。――執筆者には、砂長さんのように自身が当事者だったり、家族の中に障がい者がいる人もいます。砂長 私は障がいのため、これまで受験に失敗したり、ミスが多くて何度も会社を解雇されたりしてきた。でも、障がいを隠さずに、苦手なことは無理せず誰かの助けを借りるようになってから、とても楽に生きられるようになった。榎本 私は正確には家族に障がい者はいないが、双子の妹は未熟児で生まれ、長く保育器の中にいた。自分はどう成長するの、妹の生育は遅れた。知的な障がいはないが、身長は150センチ届かず、体は小さい。子どものころは、現在では発達障がいと分類される吃音(流暢性障がい)もあつたので、障がい者のいる家族の気持ちに少なからず理解できるかもしれない。――企業家の障がい者雇用について。榎本 うまくいっている会社もあるが、簡単ではない。本当の意味で「障がい者と共に働く」というレベルではない。法定雇用率をクリアするために障がい者を探しているという面があるのも事実だ。ぜんち共済では、障がい者実習を積極的に受け入れている。書類のスキヤニングやアンケートなどのデータ入力、パンフレットの封入作業など、任せられる仕事は少なくない。いずれ、保険申込書の入力もお願いする方向だ。――「障がいの特性に合った働き方」のために企業ができることは。榎本 「障がいの特性に合った」というのは、「それぞれの社員の個性に合った」という意味だと思つた。だから、障がいのあるなしにかかわらず、それぞれの社員の良いところを伸ばしてあげられるような仕組みが必要だ。例えば、身体障がいであれば、車いすが通れるようなオフィスにすれば十分に能力を発揮できる。精神障がいや発達障がいであれば、ソフト面での配慮してあげる必要がある。美んちゃんのように、読み書きは苦手だけれど、行動力は負けないというなら、それを生かせる仕事をやらせてもらえばいい。――企業家の障がい者雇用について。榎本 うまくいっている会社もあるが、簡単ではない。本当の意味で「障がい者と共に働く」というレベルではない。法定雇用率をクリアするために障がい者を探しているという面があるのも事実だ。ぜんち共済では、障がい者実習を積極的に受け入れている。書類のスキヤニングやアンケートなどのデータ入力、パンフレットの封入作業など、任せられる仕事は少なくない。いずれ、保険申込書の入力もお願いする方向だ。――「障がいの特性に合った働き方」のために企業ができることは。榎本 「障がいの特性に合った」というのは、「それぞれの社員の個性に合った」という意味だと思つた。だから、障がいのあるなしにかかわらず、それぞれの社員の良いところを伸ばしてあげられるような仕組みが必要だ。例えば、身体障がいであれば、車いすが通れるようなオフィスにすれば十分に能力を発揮できる。精神障がいや発達障がいであれば、ソフト面での配慮してあげる必要がある。美んちゃんのように、読み書きは苦手だけれど、行動力は負けないというなら、それを生かせる仕事をやらせてもらえばいい。

ぜんち共済社長

榎本重秋さん

ありがとうショップ代表

砂長美んさん

砂長 障がいの特性に合った働き方」のために企業ができることは。榎本 「障がいの特性に合った」というのは、「それぞれの社員の個性に合った」という意味だと思つた。だから、障がいのあるなしにかかわらず、それぞれの社員の良いところを伸ばしてあげられるような仕組みが必要だ。例えば、身体障がいであれば、車いすが通れるようなオフィスにすれば十分に能力を発揮できる。精神障がいや発達障がいであれば、ソフト面での配慮してあげる必要がある。美んちゃんのように、読み書きは苦手だけれど、行動力は負けないというなら、それを生かせる仕事をやらせてもらえばいい。――企業家の障がい者雇用について。榎本 うまくいっている会社もあるが、簡単ではない。本当の意味で「障がい者と共に働く」というレベルではない。法定雇用率をクリアするために障がい者を探しているという面があるのも事実だ。ぜんち共済では、障がい者実習を積極的に受け入れている。書類のスキヤニングやアンケートなどのデータ入力、パンフレットの封入作業など、任せられる仕事は少なくない。いずれ、保険申込書の入力もお願いする方向だ。――「障がいの特性に合った働き方」のために企業ができることは。榎本 「障がいの特性に合った」というのは、「それぞれの社員の個性に合った」という意味だと思つた。だから、障がいのあるなしにかかわらず、それぞれの社員の良いところを伸ばしてあげられるような仕組みが必要だ。例えば、身体障がいであれば、車いすが通れるようなオフィスにすれば十分に能力を発揮できる。精神障がいや発達障がいであれば、ソフト面での配慮してあげる必要がある。美んちゃんのように、読み書きは苦手だけれど、行動力は負けないというなら、それを生かせる仕事をやらせてもらえばいい。